

横浜市政をもっと身近なものに

横浜市の人口は368万人。最近大地震のあったニュージーランドの人口が431万人で、それに近い。私の住む横浜市南区の人口は19万6千人。小田原市は19万8千人と似ている。しかし、市議会議員は南区は4人だが、小田原市は28人。市議一人当たりの人口は南区は小田原の7倍。これでは、市民の声も市政に反映しにくい

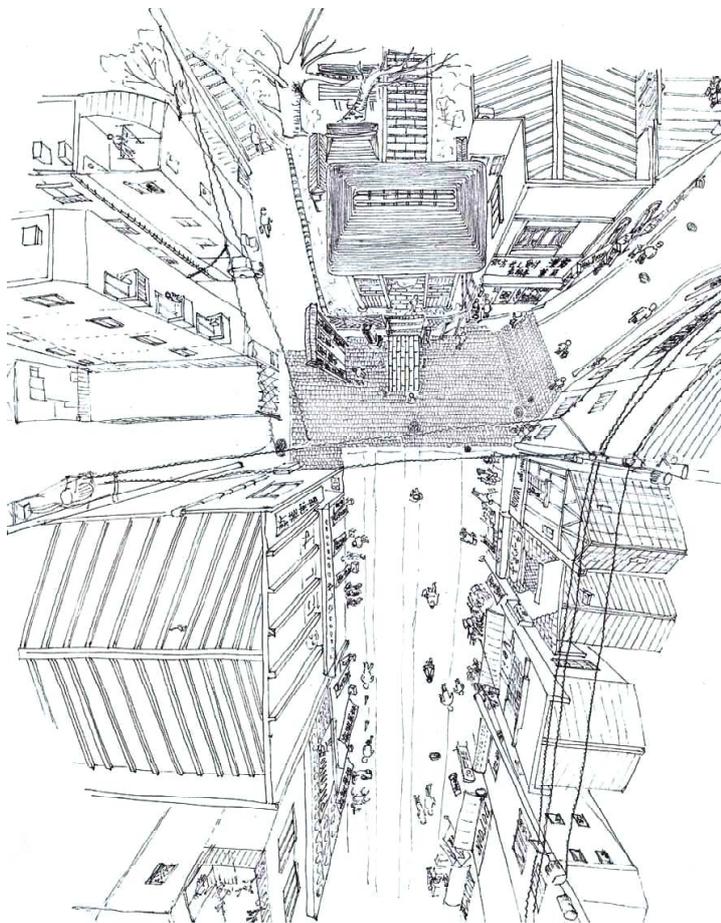
そんな中で、こんな事が行われている。

本牧埠頭の南に「南本牧埠頭」建設の為に横浜市は既に1125億支出。そして、2011年度には横浜市は予算83億円を計上。でも、南本牧埠頭が出来れば、本牧埠頭や大黒埠頭が空くだけではありませんか？建設すればネコンは儲かる。でも市民の為には何にもならない。

みなとみらいに県と市の56億円の支援で日産の本社ビルが建設された。更に5年間固定資産税、都市計画税を5割引。でも、雇用は増えていない。

ランドマークに至る歩く歩道。便利ですね。でも、あれは年間4~5千万円の市税で動いているのです。野毛や伊勢佐木町の商店街にしてみれば「自分らの払った市税でお客さんをMM21やランドマークに連れ去っている」と云うことになります。

もっと身近な問題の対処のためにこそ、市税を使って欲しいですね。皆さんはどう思われますか？



弘明寺参道

弘明寺商店街の弘明寺山門前

雀の目を借りて弘明寺の山門前の様子を空からじっくり眺めてみた。

白装束のお遍路さんを始め、長い階段を上がって本堂や途中の身代わり地藏に向かう参詣客が絶えない。買い物でたまたま通りかかった人だろうか、山門前でお寺に向かって手をあわせる人もいる。

この弘明寺の山門前には明治末に広

い参道が設けられたという。それが今の弘明寺商店街。参詣客を目当てに、昔はお茶屋さんや土産物屋が沢山あったようだ。その名残で、絵の右の方、ラーメン屋や隣のブティックの辺りは、二〇年前まではお土産の手焼き煎餅を売る店があった。そんな昔の感傷をよそに日常の買い物客が往き来し、パチンコ屋から賑やかな音が聞こえる。